

平成30年4月23日審議

1	申請者	副院長	高橋 幸利
	2018-01	自己免疫性脳炎および難治性てんかんにおける自己抗原の同定、および自己抗体の作用機構の解明201804	
	研究の概要	急性辺縁系脳炎、Rasmussen症候群等の自己免疫介在性中枢神経系疾患の病態を明らかにし、予防法・早期診断法・治療法の確立を目指す。	
	判定	承認	本申請は承認された。
2	申請者	副院長	高橋 幸利
	2018-02	自己免疫介在神経疾患の免疫調節関連遺伝子の解析201804	
	研究の概要	卵巣奇形腫症例のNMDA型GluR抗体の陽性頻度が分かると、抗NMDA受容体脳炎などの自己免疫介在性神経疾患のリスク因子としての卵巣奇形腫の意義が明らかになり、NMDA型GluR抗体産生を早期に診断し、自己免疫介在性神経疾患の発病予防あるいは早期診断治療を目指す。	
	判定	承認	本申請は承認された。
3	申請者	副院長	高橋 幸利
	2018-03	卵巣奇形腫保有女性における抗NMDA抗体の保有割合について201804	
	研究の概要	自己免疫介在神経疾患患者の免疫調節遺伝子の解析を行うことにより、自己免疫病態が生じている原因を明らかにし、治療法の確立・感染後の発病予防を目指す。	
	判定	承認	本申請は承認された。